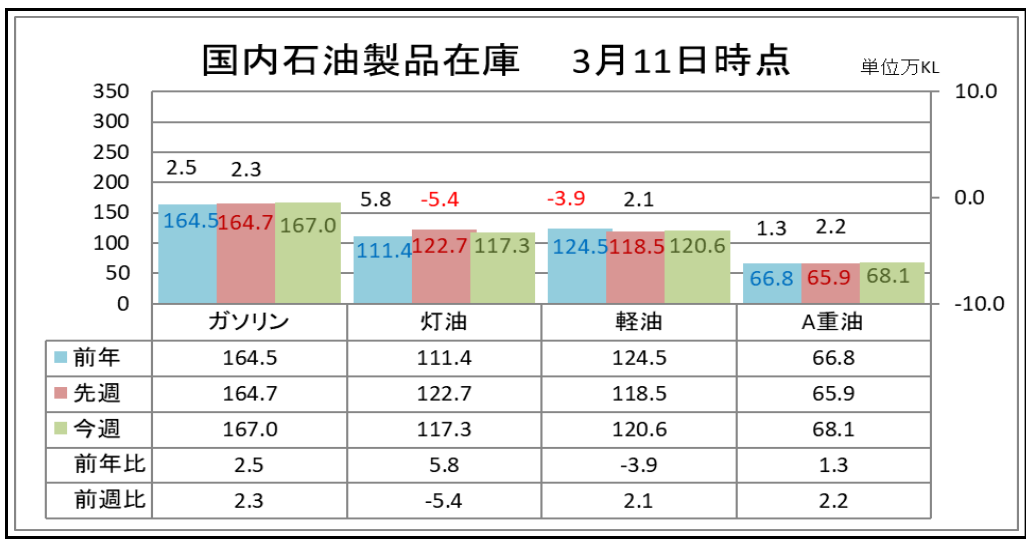
# イデックスオイルレポート　~For a week~

2023/3/17作成　(株)新出光

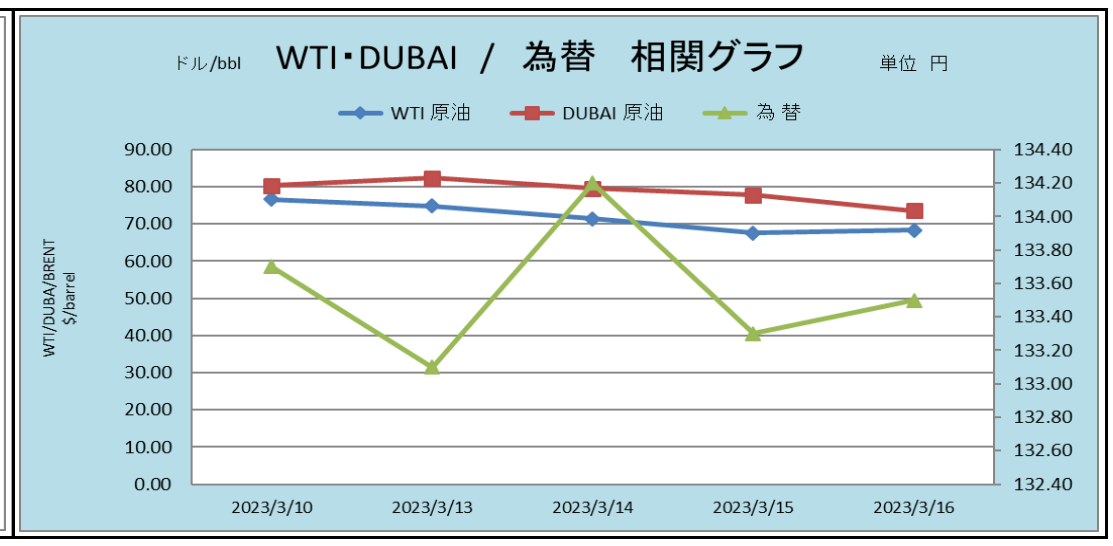
## 【概況】＜米中堅銀行のシリコンバレー銀行とシグネチャー銀行の破綻＞

●10日、米労働省が朝方発表した2月の雇用統計によると、非農業部門の就業者数は前月から31万1000人増加し市場予想を大きく上回った一方で、失業率は悪化。また、平均時給の伸びは0.2%増と、市場予想を小幅に下回りました。この発表をきっかけに、対主要通貨でドルが下落。ドル建て商品の割安感が強まり、終日買いが集まり相場は**76.68**ドルへ反発しました。
●13日、IT企業やベンチャー企業を主要顧客とする米SVBファイナンシャル・グループ傘下のシリコンバレーバンクが10日、経営破綻した。さらに、ニューヨーク州金融監督当局は12日、同州の地方銀行で暗号資産（仮想通貨）関連業者との積極的な取引で知られていたシグネチャー・バンクの事業を停止し、管理下に置いたと発表。シリコンバレーバンクに続く経営破綻となった。これが金融不安につながるのではという警戒感から投資家のリスク回避姿勢が強まり、株式と並んでリスク資産とされる原油は売りが優勢となり相場は**74.80**ドルへ下落しました。
●14日、朝方発表された2月の米消費者物価指数（CPI）の伸び率は鈍化したものの、前年同月比は6.0%上昇と依然としてインフレの高止まりが確認された。米中堅銀行のシリコンバレー銀行とシグネチャー銀行の破綻に伴う不安感から地合いが悪化していたところに、根強いインフレ圧力で石油需要が減退するとの懸念が改めて台頭し相場は**71.33**ドルへ下落しました。
●15日、スイス金融大手クレディ・スイスの経営不安に伴い、同社株が急落。前週末以降の米中堅銀行2行の経営破綻をきっかけに広がったリスク回避の動きが市場で再燃しました。4月物は米時間早朝に下落に転じ、朝方に節目の70ドルを割り込みました。安全資産とされるドルが対通貨バスケットでじり高となったことも、ドルで取引される原油相場の重しとなり相場は**67.61**ドルへ1年3か月ぶりの安値になりました。
●16日、米紙ウォール・ストリート・ジャーナルが関係筋の話として、米中堅銀行ファースト・リパブリック銀行が、JPモルガン・チェースやモルガン・スタンレーなど複数の米金融大手と資本増強策などを協議していると報道。また、イエレン米財務長官が上院財政委員会で証言し、シリコンバレー銀行など米中堅銀行2行の経営破綻への対応を説明し、「米国の銀行システムは引き続き健全だ」と強調しました。これらをきっかけに、金融市場に対する過度な懸念がやや緩和。買い戻しが入り、相場は**68.35**ドルへ反発しました。

| 3月17日 | 16:00現在 | WTI原油 | 68.63ドル | 為替　1ドル | 134.54円 |
|---|---|---|---|---|---|




| | ガソリン | 灯油 | 軽油 | A重油 |
|---|---|---|---|---|
| 前年 | 164.5 | 111.4 | 124.5 | 66.8 |
| 先週 | 164.7 | 122.7 | 118.5 | 65.9 |
| 今週 | 167.0 | 117.3 | 120.6 | 68.1 |
| 前年比 | 2.5 | 5.8 | -3.9 | 1.3 |
| 前週比 | 2.3 | -5.4 | 2.1 | 2.2 |




| | 次回元売変動予測 3/23～ | 元売変動予測 |
|---|---|---|
| ガソリン | → | +0.6 |
| 灯　油 | → | +0.6 |
| 軽　油 | → | +0.6 |
| A 重 油 | → | +0.6 |
| L S A | → | +0.6 |

※原油コスト「-6.5円」
※激変緩和補助金「-10.0円」 前週比-7.1
※現時点での予測です。

## 【次世代エネルギー】＜出光、苫小牧で「合成燃料」実用化へ　原油に代わる次世代エネルギー　30年までに供給網構築目指す＞

原油に代わる次世代エネルギーとして注目される「合成燃料」。石油元売り大手の出光興産（東京）は本年度、北海道製油所を置く苫小牧で、実用化を見据えた事業を展開している。新千歳空港や大規模工業地帯など、需要と供給が見込める施設が立地する好条件を生かし、2030年までに製造や流通の供給網を構築予定。合成燃料は、水素と二酸化炭素（CO2）から生産された石油製品（ガソリンやジェット燃料など）の総称。二つの物質を反応させてできた燃料は「人工的な原油」と呼ばれ、これを精製した石油製品は既存の自動車や航空機などに使用できる。同社は合成燃料の原料として、再生可能エネルギーによる電力で水を分解してつくる「グリーン水素」と、市内工場などから排出されるCO2を想定。昨年12月には、北海道製油所の敷地内に風況観測塔を設置。風力発電を利用したグリーン水素製造を視野に、風速や風向のデータを取り始めた。1月には北海道電力や石油資源開発（東京）などと共に、周辺の工場などから出るCO2を地下に封じ込めて資源として再利用する技術（CCUS）の共同事業を、苫小牧で実施する検討に入った。CO2は合成燃料の原料などとして使用する計画。山岸孝司所長は「再エネ由来の合成燃料のガソリンや灯油をつくり、皆さんの生活を支える。2030年までに、小規模でもモデルを確立したい」との事です。

［出典］　①　https://www.hokkaido-np.co.jp/article/804262

© 2023 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.